

評価項目	評価内容
I. 教育理念・教育目的・教育目標	<p>今年度も新カリキュラム移行の過渡期にあつたが、学生だけでなく、教育に携わるすべての人に教育理念・目的を周知でき問題なく移行できた。昨年の課題である「コミュニケーション力」、「多職種連携」、「臨床判断能力」、「社会人基礎力」については、カリキュラム改訂により特に強化した部分であつた。今年度21回生の卒業後調査結果では、課題である項目の評価の上昇があり、新カリキュラムを見据えた内容に変更したことが影響していると考えられる。次年度に最終学年となる23回生は、1年次より新カリキュラムの履修となるため、今後も適宜旧カリキュラムとの比較、検討しながら評価を実施する。中でも社会人基礎力については、日々の学校生活で身につけられるよう機会教育を実施しているが、あまり変化がみられない学生もいる。前年度まで各学年の実習前後において、社会人基礎力の変化について自己評価を実施していたが、今年度より教員による他者評価を取り入れた。その取り組みにより、学生は自身を客観視しながら意識して取り組むことができ、リフレクションの機会にもつながっていた。今後もポートフォリオとなるよう継続した働きかけが必要である。また、実習指導者にも継続して伝えていくことで、実習病院・施設と学校が相互的に作用しあいながら、学生の成長を促すことができるよう、発信を続ける。</p>
II. 教育課程	<p>新カリキュラム始動に向け、十分に検討がなされた体制での教育課程が昨年度から開始された。今年度は、新設5科目が実施されたが、実施後は適宜評価を行い、課題の明確化と次年度に向けた改善策の検討を実施しながら遂行できた。領域横断の新設科目は本校の特色が盛り込まれており、1年次から3年次まで積み上げ式に学習を深めることができている。次年度も新設科目において、学生と社会のニーズを考慮しながら取り組んでいく。また、旧カリキュラム対象の学生においては、時間調整のもと新カリキュラムへの互換がなされ、適宜説明と明示を行い、単位履修を支援している。評価に関しては、講義終了時の授業評価をもとに授業内容や進度の見直しをし次年度に活かすことができ、「特定個人情報取扱規程」において厳重な管理体制も整っているため、今後も維持していく。</p> <p>今年度も副学校長が教務主任業務を兼任し、専任教員が業務の一部を代替するなど連携協働が図れた。次年度は教務主任と実習指導教員一名が配置され、業務の分担・整理されることが見込まれる。また、学生支援システム導入2年目となり、教職員全体での協力体制により業務改善も進んでいるため、授業準備等を含めた教員の自己研鑽のための時間確保につながると考える。</p> <p>厚生労働省よりコロナウイルス感染症拡大前の実習体制に戻すとの周知事項を受け、各々の実習病院に対して学生の学びを保障する準備を整えている。臨地実習は通常となるが、引き続き感染予防対策の徹底を学生に周知していく。一部の実習病院では、看護体制の変更により実習指導体制に影響が生じたが、学生の学びを確保するため、学校と病院の双方で指導内容を明確にし、連携調整を図りながら迅速に対応していく。今後も各々の施設で差異が生じないよう事前の打ち合わせの強化を継続していく。また、「地域医療構想をふまえた松阪市民病院のあり方検証委員会」の内容より、実習病院の統合を見据えつつ実習場所の確保に努めていく必要がある。松阪地区内での実習が円滑に実施できるよう、今後も実習病院との連携を密にしていく。</p>

<p>III. 教授、学習、 評価過程</p>	<p>講義概要、実習要項に基づいて授業や実習を実施できているため、看護学の教育内容としての妥当性・整合性をもって教授できた。授業内容の重複・整合性・発展性についても、教員は意識して説明することができているが、学生の認識は不十分であることが多いため、次年度以降も学生に意識的に伝えていく必要がある。新カリキュラム移行2年目となり、学生の学びが深化するよう授業内容に応じて、教授方法も工夫されている。今年度の新たな取り組みとして、2年次の科目横断の新設科目では、ジグソー学習を取り入れたことで、能動的かつ発展的な学びができていると教員、学生の双方から評価できた。複数の教員が教授する場合は教員会議等で情報共有を行い、演習では一覧表を作成することで教員間の協力体制を明確化できている。</p> <p>単位認定のための評価基準と方法は、明示され学生への提示も継続して実施できた。また、単位認定会議も計画通り開催され、公平性も担保できている。年間を通して科目責任者を中心に、評価計画を立案して評価することができている。学生が行う授業評価の入力について、カリキュラム担当に協力を得て周知したが未入力者が多かった。次年度への課題として、科目担当者から終講試験の際に入力を伝えることや、ホワイトボードへの掲示など、工夫が必要である。</p> <p>外部講師・教員とも初講の際にはシラバスを学生に提示、説明することで、一貫性を持って取り組むことができた。授業評価を科目担当の外部講師へ伝達するなどし、改善に向けて取り組むことができている。学生の卒業時の学生生活の満足度調査では、「シラバスと実際の教育内容は概ね一致している」では全ての学生が大いにそう思う、そう思うと回答しており、教育内容への満足度も高いことから学習への動機づけの一助となっていると評価できる。</p>
<p>IV. 経営、管理過程</p>	<p>教育理念・教育目的、教育課程経営、教育評価、管理運営等による考え方は管理者により明示されており、定期的な運営会議の開催により、教職員全体で内容を周知し体制を維持することができている。今年度は、公益社団法人松阪地区医師会組織図に新たに事務主任と実習調整者が任命され、次年度より教務主任が任命され実働となる。組織体制や権限、役割機能の明確化から意思決定システムも整えられている。教職員の資質向上に関しても、各担当領域分野のみならず自己研鑽につながる研修会に参加できたため、今後も専門性を磨くための学会や研修に参加し、各々の資質向上につなげていく。</p> <p>医師会全体の財政は厳しい状況が続いているが、学生の学習や教育に必要な教材は確保できており、教育の質は維持できている。今後も教職員は財政基盤や財政状況を把握し、できる範囲の節約に取り組みながら教育の質の維持に努める。そして、学生の学校生活や教職員の業務が円滑に遂行できるように施設を整備していく。</p> <p>本校は、実習病院からの奨学金、日本学生支援機構奨学金、高等教育の修学支援新制度、厚生労働省教育訓練給付金など、学生が入学後も学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。また、サポーター制度の導入により、学生を3年間通してサポートする体制が維持できている。教職員での情報共有が図れ、様々な問題を抱える学生へのタイムリーな支援にもつながっているため、今後もこの体制を継続する。関係者（保護者等）への情報提供は、文書や電話、HP等により適宜実施され、なかでも成績不良学生の関係者（保護者等）に情報提供することで、学校と家庭の双方で支援することにもつながった。さらに、地域にむけた広報活動として、松阪マラソンへのボランティア参加、実習病院の防災訓練への参加、学生32名の地域消防団への入団等があった。広報誌「日本消防」に看護学生の消防団加入についての記事が掲載されている。今年度は、近隣の中学校4校に「わくわくクスクール」への講義を実施し、本校の存在をアピールする機会にもつながった。しかし、今年度の受験者数は18歳人口の激減に伴い大幅に減少し</p>

	<p>ており、今後も厳しい状況が続くことが予測されている。現代の若者や社会人の目を惹くよう SNS 等を工夫し、本校の魅力を十分にアピールできるような広報活動につなげていく必要がある。</p> <p>年間計画は予算の基盤をもとに備品の購入計画、設備の修繕計画等具体的に運用できており、今年度は再雇用についての説明もなされた。しかし、長期計画については具体的な将来構想の検討は進んでいない状況である。運営会議の場において将来構想について具体的に検討する機会につなげていく。また、自己点検・自己評価体制は整えられ、各カテゴリーにおけるワーキンググループの活動により、カリキュラム運営や授業実践にフィードバックできている。今年度は、日本看護学校協議会の「組織診断サーベイ」において評価を受け、本校の維持・改善につなげることができた。今後もこの体制を継続していく。</p>
V. 入学	<p>入学選抜についての考え方は、学校運営に関する諸規定、看護学校養成所案内、募集要項に示されている。例年通り広報活動を行い、入学の選抜方法を昨年度より変更したが、令和6年度の受験者数は激減している。その理由として18歳以下の減少によるものと考えられ、今後も続くことが予測される。そこで社会人入試を取り入れたが、期待する結果に結びついていない状況である。今後、入試の社会人枠募集について検討していく必要がある。さらに、オープンキャンパスの回数を増やすなど本校のアピールの方法を検討していく必要がある。</p>
VI. 卒業、就業、進学	<p>21 回生の卒業後半年の調査の結果は、全体的に上昇がみられたが、「地域理解」の項目が身につけている卒業生は相変わらず低い状況であった。意識付けが行われるよう学校-臨床間での継続教育を期待したい。それ以外の項目ではほとんどの学生が身につけられていることから、新カリキュラムの移行期ではあったが、社会人基礎力を意識して授業・実習に臨んでいた結果であると考えられる。新カリキュラムでは、さらに調査項目の強化に向け、社会人基礎力を意識して授業・実習に臨むよう働きかけていく。卒業後調査は、各病院によって評価点が異なっていたが、実習病院と情報交換を行うなど、卒業生の状況を把握できており、教員が実習先で卒業生の相談に応じているケースもある。今後も実習病院と情報交換を密にし、卒業生の状況を把握していく必要がある。</p> <p>今年度は開校以来の初めての試みとして、卒業生の地域貢献状況を把握するため、松阪地区の各病院・施設・診療所に就業調査を実施し、次年度に結果を出す予定である。卒業生の状況を在校生に伝え、地域理解を深めながら地域で活躍できる人材育成に引き続き取り組んでいく。また、新カリキュラムで強化したい課題である社会人基礎力については、低学年から継続的に成長を感じられるようポートフォリオとして保管するよう変更した。今後、主観的・客観的評価ができ、学生が具体的にどの部分を取り組むべきかが明確となると予測される。看護基礎教育から臨床につなげられるような社会人基礎力の育成に取り組んでいく。さらに、同窓会の「松看会」とも連携を密にし、定期的な役員会には学校職員も参加して意見交換している。学校をサポートしていただく重要な組織として、今後も継続して太いパイプを築いていきたい。</p>
VII. 地域社会、国際交流	<p>新カリキュラム始動より地域に根差した科目を強化している。市内の病院や保健福祉関係など様々な分野からご講義いただき、地域のニーズを把握できるように取り組んでいる。また、ボランティア活動（ふれあい体育祭、松阪マラソン、災害訓練、消防団など）を通して地域の特性を取り入れた活動を実施している。2年生後期では、地域における生活と健康課題について学習する科目も始講義され対象のニーズについての理解にとどまらず、地域包括支援センターへ発信し学びを深めることができた。また、近隣の中学校からの依頼で「わくわくスクール」</p>

	<p>に参加し、進路を考える機会をつくり地域貢献につなげられている。献血活動においては、15年以上継続的に献血に協力した団体に贈られる「銀色有効章」の表彰を受けた。今後も、積極的に地域貢献、社会貢献につなげていく。</p> <p>本校は、臨床英語やフィリピン語の授業を取り入れ、国際的視野を広げるように働きかけている。母性看護学実習において、フィリピン国籍やベトナム国籍の対象を受け持たせていただいたが、通訳者がいたことやアプリを活用したコミュニケーションにより抵抗を感じることはなかった。しかし、臨床英語力が低いため、会話は挨拶から発展させることができない状況であった。今後様々な外国人にも対応していけるよう、英語力を強化していく必要がある。</p>
VIII. 研究	<p>三重県看護学校校長会研修会をはじめ、日本看護学校協議会研修会に参加するなど各教員が自己研鑽を行っている。さらに、学生の社会人基礎力を高めるため、教員間で社会人基礎力についての学習会も継続している。教務主任研修を受講していた教員は、多職種連携に関する研究に取り組んでおり、教務主任研修を終え、次年度も引き続き研究に取り組む予定である。また、日本看護学校協議会主催のスキルアップ研修を受講した教員や、次年度三重看護研究学会誌へ掲載される研究に取り組んだ教員もいる。今後も本校の取り組みについて発信していく。また、卒業後のアンケート調査は、臨床との共同研究として研究活動ができるように勧めていく。本校は、SPSSも導入され、統計学の研修も全教員が受講し、研究準備が整われつつあるが倫理委員会を設置していないため、発足を検討していく必要がある。</p>

R 5年度評価項目ごとの点数

松阪看護専門学校

評価項目	R5年度 評価点数	R4年度 評価点数	R3年度 評価点数
I. 教育理念・教育目的・ 教育目標	3.0	3.0	3.0
II. 教育課程	3.0	3.0	2.8
III. 教授、学習、評価過程	3.0	3.0	3.0
IV. 経営、管理過程	2.9	2.9	2.9
V. 入学	3.0	3.0	3.0
VI. 卒業、就業、進学	3.0	2.8	2.8
VII. 地域社会、国際交流	3.0	3.0	3.0
VIII. 研究	2.6	2.3	2.0

評価点数

